

Title	日本語とタイ語のSNS における不安共有のやりとりの 対照研究 : COVID-19 に関する会話をデータとして
Author(s)	チャランポン, スパーナン
Citation	日本語・日本文化研究. 2022, 32, p. 109-122
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/90722
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

日本語とタイ語の SNS における不安共有のやりとりの対照研究 —COVID-19 に関する会話をデータとして—

チャランポン スパーナン

1. はじめに

本稿では、新型コロナウイルスが世界中に蔓延しているコロナ禍の状況において人と会うことが制限される中で、SNS (Social Networking Service) がどのような意味を持ち、どのようなコミュニケーションが行われているのかを考察するために、SNS を用いた友人同士のチャットコミュニケーションを分析する。

2019 年の末から現在 (2022 年 8 月) に至るまで新型コロナウイルスが世界中に拡大し、人々に様々な影響を与え、深刻な事態を引き起こしている。外出時のマスク着用や、手洗い、うがいの習慣化等、生活様式が変わり、人々は多少なりとも不安を抱えているだろうと予測される。また、新型コロナウイルスの蔓延による深刻な事態が人々の生活に与えた影響の一つに、家族や友人と対面で会うことができなくなったことが挙げられる。スマートフォンの普及により、チャットメッセージが重要なコミュニケーションの一つとなっているが、コロナ禍では、チャットメッセージの重要性がますます増していると考えられる。

チャランポン (2020) では、悩み語りのような好ましくない状況の会話において、タイ語母語話者の悩み語りの聞き手は【からかい】、日本語母語話者は【共感】で応じる傾向があるということが論じられた。その違いをきっかけとして、本稿では、同じく好ましくない状況であるタイ語と日本語の不安に関する会話について研究する。タイ語と対照するのは、タイ語が筆者の母語であるからである。また、タイ語と日本語それぞれの言語の特徴を探り、その類似点・相違点を明らかにすることによって、タイ語を母語とする日本語学習者への日本語教育の一つの手がかりになると良いと考える。

本稿では、COVID-19 による不安な状況に関する SNS 上での日本語母語話者およびタイ語母語話者の会話を研究対象とし、会話参加者がどのように不安を伝える内容の発話を行い、それに対してどのような反応を行って会話を展開していくのかを会話分析の手法を用いて明らかにすることを目的とする。会話の参加者がどのような行為を通して不安な会話を成立させているのか、連鎖組織に着目して分析する。

2. 先行研究

本節では本研究に特に関連のある、SNSのコミュニケーションに関する研究(2.1)、不安を引き起こすような好ましくない状況に関するタイ語と日本語の会話の研究(2.2)、そして共感に関する研究(2.3)を紹介し、2.4でそれらの問題点を指摘した上で、本研究の課題について述べる。

2.1 SNSに関する先行研究

SNSとは、Social Networking Serviceの略で、社会的な繋がりを作り出せるサービスのことである。総務省情報通信政策研究所(2020)によると、日本では、主なソーシャルメディア系サービスアプリの中で全年代の利用率が高いのはLINEであるということであり、SNS上のコミュニケーションに関する研究では、LINEを扱ったものが増えつつある。西川・中村(2015)では、LINE上のコミュニケーションの特徴が、次の5つにまとめられている。(1)やりとりの速度が速く、一旦途切れた会話が翌日再開されても、スムーズに会話が継続される。(2)複数の話題が同時並行でやりとりされる話題の輻輳が問題なく遂行されている。(3)スタンプ機能以外にも、顔文字表現も行われ、テキスト以外の表現の工夫や使い分けが生じている。(4)同じスタンプや画像を別のニュアンスで多用している。(5)極端に短文化され、省略されたメッセージの理解のためテキスト内外の文脈への依存度の高いコミュニケーションである。

また、SNSのチャットを会話分析の手法で分析した研究には岡本(2017)、岡本・服部(2017)などがあり、例えば、スタンプは1つのターンと隣接ペアの一部として機能することが報告されている(岡本・服部2017)。

2.2 日本語母語話者とタイ語母語話者の好ましくない状況に関する会話についての研究

「不安」の会話を対象とする日本語とタイ語の会話研究は管見の限りまだなされていない。本稿は、コロナという不安な社会情勢の中で、心理的に「不安」を抱えている話し手はどのような発話をするのか、それに対して聞き手はどのような反応をするのかについて分析するため、ここでは「不安」に関連のある「愚痴」「不満」という好ましくない状況に関する会話についての先行研究を見ていく。

人間が漠然とした不安から解消される方法の一つは誰かに愚痴をこぼすことだと考えられるため、まず、愚痴についての研究をみる。釜田(2017)は、日本語会話における共感の仕組みを研究するために、愚痴や悩み、不満などの会話を研究し、「愚痴」は聞き手に同調してもらえることを期待しているが、「愚痴」に同調しないことは、語り手の経験を否定することに繋がるため、「愚痴」に同調できないと

考えていても表面的には一度同調し、その後、徐々に同調できないことを伝えたほうが語り手を否定せずに済むと述べている。

次に、不安と同じく好ましくない状況である不満についての日本語とタイ語の研究を紹介する。まず、日本語では、釜田（2017）は、不満では、語り手が聞き手に自分の正当性を認めてほしいと望んでおり、聞き手が語り手の正当性を認めることができない場合、その代わりに語り手の心情に賛同する傾向があると述べている。一方、ソムチャナキット（2013）は日本語母語話者とタイ語母語話者の不満表明について分析し、両言語とも明示的な不満表明ストラテジーが用いられる傾向にあるが、タイ語では日本語と比べ、多様なストラテジーが使用され、冗談を言いながら不満表明を行うという特徴がみられたとしている。ウォンサミン（2016）では、日本語母語話者は、不満を言う側が不満を言われる側に好ましくない状況の原因・理由の説明を求めて、最後に好ましくない状況の結果を客観的に強調する傾向があるが、タイ語母語話者は親しい友人に対する不満表明の際に、不満を言う側が冗談を言うのが特徴的であることが指摘されている。それに関して、ウォンサミン

（2018）では、日本語会話におけるタイ人日本語学習者の不満表明に関する研究の中で、タイ語母語話者は、時に親しい相手に冗談を言うことによって、「遊ぶ自分」として、不満表明フレームから遊びフレームへのリフレーミングを開始し、不満表明フレームの真剣な側面を留保して、一時的に相手の笑いを誘うような「真剣ではない側面」に切り替えてやりとりを行っているとしている。つまり、真剣に問題の解決法を導かなければならない状況にもかかわらず、素早い状況の解決を優先するのではなく、相手と所々冗談を交えながら会話を進めていることが明らかになったと述べている。

2.3 共感に関する先行研究

この節では、日本語母語話者の不安を語る際の聞き手の反応について述べる。水谷（1993）によれば日本語の会話は「共話」のタイプで、話者間の共通の理解を前提としているという。そこで、チャットという文字の会話で聞き手が語り手の語りを支援する重要な役割の1つであると考えられる「共感」を取り上げる。日本語の「共感」について釜田（2017）は、ネガティブな評価に対する「共感」を分析し、語り手は聞き手に認められたいという欲求、聞き手は語り手を認めたいという欲求があり、互いに調整を行いながら態度をすり合わせ、その積み重ねによって共感が創り上げられると述べ、共感単に自分の欲求だけを満たそうとするのではなく、相手の欲求も満たそうとする複雑な営みであるが、人間関係の構築や維持を行う上で欠かすことができない営みであると論じている。西阪他（2013）は、ボランティア

ア活動である足湯活動におけるコミュニケーションをデータにし、「私も…」など相手に共感するようなことは、自分が相手と同じ場面でその経験を共有している場合だけではなく、異なる空間、時間においても同じような経験をしたり、あるいは、そのような話を見聞きしていたりする場合にも起きうると述べている。

2.4 先行研究の問題点と本稿の課題

2.2 で述べたように、「不安」に関する研究は心理学の分野のものが多く、日本語とタイ語の会話研究は管見の限りまだなされていない。また、釜田(2017)、ソムチャナキット(2013)、ウォンサミン(2016、2018)の先行研究から、好ましくない会話において、日本語では聞き手から同調や正当性を認めてもらうことを求めるのに対し、タイ語では冗談を交えながら会話を進めていくという特徴があることが分かった。では「不安」のやりとりにおいてもそのような行為がみられるのかという疑問が生じる。従って、本研究では、SNSの会話のデータから、会話の参加者である話し手と聞き手がお互い不安な気持ちを共有する部分での会話に着目する。

どのような行為の連鎖によってやりとりがなされるのかを明らかにするため、分析には会話分析の手法を用いる。会話分析では「会話を相互行為状況の基本的な形態と捉え、会話の中で交わされる発話を人々が相互行為的に何かを成し遂げる過程として捉える」(高木・細田・森田 2016:9)。このことから、会話の参加者が不安な気持ちを共有する際、どのようなやりとりが行われるのか、不安を共有した後どのような内容へ展開するのかについて、会話分析の手法を用いて、連鎖組織及び言語表現の分析を行う。

3. 研究方法

3.1 データ収集

本稿では SNS 上の COVID-19 に関する友人同士の好ましくない状況に関する会話における連鎖組織及び言語表現、参加者の相互行為の特徴を探るために、親しい間柄における COVID-19 に関する話題のネガティブな内容のチャットの会話を収集した。

データ収集の時期は 2020 年の 7 月から 11 月までで、協力者に、COVID-19 に関する不安など好ましくない状況に関する SNS でのチャット会話の画面を撮影して、協力者の自己判断で会話の始まりから終わりまで送ってもらうよう依頼した。協力者は日常でソーシャルメディアを利用することが多いと予測される大学生・大学院生を対象とした。データとして、10 代～50 代までの日本人の大学生・大学院生 20

名、タイ人の大学生・大学院生 43 名による LINE などのチャット会話のデータを、日本語のものを 59 会話、タイ語のものを 85 会話収集した。

3.2 分析方法

まず、会話のやりとりを連鎖組織として分析するために、全ての発話を行為として捉えて発話機能のラベルを付ける。発話を抽出する際、基本的に一つの吹き出しは一つの発話として捉えるが、一つの吹き出しに複数の文がある場合、一つ一つの文をみて、それぞれに発話機能を付ける。また、スタンプと写真も一つの発話と捉える。本稿では、特に表 1 の発話機能に注目する。

表 1 COVID-19 に関する会話における発話機能

発話機能	定義
【不安表明】	不安な気持ちを表す発話
【不満表明】	不満な気持ちを表す発話
【情報提供】	相手に情報を与える発話、また、相手の抱えている問題や悩みに対して、情報を与えることによって、解決案を非明示的に提示する発話
【共感】	相手と同様に感じていることを示す発話
【評価】	会話の相手と相手に属する人／モノ／コトについて、その意義・価値を認めたり、それらの善悪・美醜などの価値を判断して決めたりすることを表す発話
【からかい】	相手に冗談を言って、相手を揶揄する発話

その後、発話をポジティブな内容（例：特にきにしてはないから）か、ネガティブな内容（例：コロナどうなんやろ）か、すなわち会話の参加者にとって、その内容は不安を消し去るようなことなのか、あるいは不安の原因になるようなことなのかを文脈から判断し、ポジティブとネガティブそれぞれの『+』と『-』というラベルを付した。

次に、会話の全体を連鎖組織に分ける。また、それぞれの連鎖組織の内容を見て、その連鎖組織を通して会話参加者らが何をしているのかを判断し、連鎖組織のラベルを付ける。今回最も注目したのは、抽出した連鎖組織のうち【不安共有の部分】である。【不安共有の部分】は不安表明の話し手が聞き手と COVID-19 に関する不安を共有しようとする連鎖組織である。他に本稿で扱うデータは【症状確認の部分】という部分で、相手に現在の症状を聞いて、コロナに感染したかどうかを確認する部分である。この部分も【不安共有の部分】から展開してきたものであるため、注目する。

連鎖組織のラベルを付けた後、その会話がどのような活動を成し遂げようとするものであるのかを探るため、話題がポジティブとネガティブのどちらの方向に向か

うのかに着目して分析・考察する。その際、発話に用いられた言語形式も分析・考察する。

4. 分析と考察

本稿では、【不安表明】から始まる会話の事例について、紙幅の都合上、一方の言語だけに存在する特徴がみられる会話例を、日本語とタイ語で1つずつ取り上げ、会話における連鎖組織及び言語形式とその会話の展開を見ていく。今回のデータから、不安な気持ちを共有する際、会話の殆どは【不安表明】という発話から始まっていたため、本稿は【不安表明】から始まる会話を例として取り上げる¹⁾。なお、タイ語のデータは日本語に直訳して提示する。

4.1 日本語の会話例

日本語の会話例1は3人での会話で、当時感染者が増える一方で、感染するのが怖く、そのせいで予定も色々変わり、困っているということをお話している(図1)。

日本語の会話例1 (日本語データ N12¹⁾: [N12A]・50代女子大学院生、[N12B]・50代女子大学院生、[N12C]・40代女子大学院生、LINE)

<ul style="list-style-type: none"> 01 [N12C]: 不安表明 [-] 02 [N12A, N12B]: 既読 03 [N12C]: 質問 [-] 04 [N12A]: 応答(不安表明) [-]、 評価 [+] 05 [N12B]: 共感 (+) : 情報提供 [-] 06 [N12A]: 理解、評価 [-] (残念) 07 [N12C]: 理解 [-]、共感 [-] 共感 [-] 08 [N12C]: 評価 [-] (残念) 	
--	--

図1 日本語の会話例1のデータ及び連鎖組織

この会話例 1 は、【不安表明】で開始される【不安共有の部分】で、この日本語の会話例 1 から 2 つの連鎖組織が抽出できた。会話の構造として、まず、連鎖 1 は、【不安表明】—【理解】という隣接ペアから成っている。次に、連鎖 2 は、【質問】—【応答】という隣接ペアから成っているが、その【応答】では会話の参加者の不安な気持ちも表明されたため、不安表明の聞き手が【共感】と【評価】を行い、連鎖を拡張している。どちらの連鎖も会話の参加者がお互い不安を共有したため、この会話は【不安共有の部分】のみとなっている。

まず、【不安表明】—【理解】という隣接ペアから成る連鎖 1 (01-02 行目) を説明する。

日本語の会話例 1 の連鎖 1

01 [N12C] : 不安表明 〔-〕	なんか東京も感染爆発しそうだと今言ってるし、 怖い..... 😨
02 [N12A、N12B] : 理解	既読

この連鎖の始まりでは、[N12C] が 01 で「なんか東京も感染爆発しそうだと今言ってるし、怖い..... 😨」と感染者数の増加が怖いという【不安表明】を行っている。その後、[N12C] がすぐ 03 で質問を続けて述べているため、[N12A] と [N12B] は返信する機会がなく、既読のみとなっているが、チャットの会話では既読するというのもうメッセージを読んで、理解したと解釈できるため、【不安表明】—【理解】という隣接ペアとして成立していると思えることができる。

次の連鎖組織 2 (03-08 行目) は【質問】で開始されている。

日本語の会話例 1 の連鎖 2ⁱⁱⁱ

03 [N12C] : 質問 〔+〕	[N12A] さんの学校は、学生さんは無事に入って これそうですか? 😨
04 [N12A] : 応答 (不安表明) 〔-〕	いつ入ってくるか、さっぱりわからん。 入学式も中止だし、いつくるかわからんけど 準備万端できたから。暇〜❤️
05 [N12B] : 共感 〔+〕	早く収まったらいいですね
07 [N12C] : 理解	そうですか 😨
共感 〔-〕	せっかく、バタバタして X 県にいかれたのに、 残念ですね 😞
共感 〔-〕	どこの日本語学校も大変でしょうね 😨

05 [N12B] : 情報提供 [(-)]	今年は新入生歓迎パーティーもないそうです 😞
06 [N12A] : 理解、 評価 [(-)]	そうなんだ。 楽しかったのに。色々な人や先生とあんなにざっくばらんに話せるチャンスってなかなかないのね。
08 [N12C] : 評価 [(-)]	残念..... 😞😞 楽しんでいたのに..... 😞

この連鎖2に示すように、[N12C]は03で「[N12A]さんの学校は、学生さんは無事に入ってこれそうですか? 😞」というポジティブな【質問】をしている。それに対する隣接ペアとして、[N12A]は04で学生はいつ来日できるのかわからないと【不安表明】での【応答】をしているが、「けど」という逆接の接続助詞を用いて、「準備万端できたから。暇～～♥️」と「準備万端」、「できた」という可能形、そして「♥️」の絵文字の表現を使用し、難しい出来事の中であっても自分はどういつでも対応できるというポジティブな【評価】をしている。次に[N12A]04の現在の勤務先である日本語学校についての【応答】に対して、それぞれ[N12B]05と[N12C]07の発話がなされている。[N12B]は05で「早く取まったらいいですね」と状況がよくなるという希望を表すポジティブな【共感】を示している。一方、[N12C]は07で04に対する【理解】を示して、「せっかく～のに」、「残念ですね」、「大変でしょうね 😞」などの表現を用いて、【共感】を示している。これらの発話は[N12A]の【不安表明】に対するネガティブな【共感】である。

続いて、[N12B]は05で、3人が在学している大学の新入生歓迎パーティーも今年中止になるというネガティブな【情報提供】を行って、連鎖を拡張している。

[N12B]05に対して、[N12A]06の【理解】+【評価】と[N12C]08の【評価】が隣接ペアをなしている。ここでは、[N12A]と[N12C]は残念な気持ちを表す【評価】をしている。残念な【評価】では、「楽しかった/楽しんでいたのに」、「色々な人や先生と・・・話せるチャンスってなかなかないのね」という残念な気持ちを表す「のに/のにね」と「残念」という表現を使っている。さらに、残念な気持ちを表すのに、「😞」や「😞」などネガティブな絵文字も使用している。

以上、日本語の会話1では、相手が【不安表明】をすると、聞き手は【理解】をしたり、ネガティブな内容の【共感】や【評価】をしたりしていた。聞き手のネガティブな内容の反応によって、会話のやりとりがネガティブなままで続けられていた。

4.2 タイ語の会話例

次に、【不安表明】の発話から始まる〔不安共有の部分〕から始まるタイ語の会話例をみていく。この会話例1は、今の状況であれば、自分もコロナに感染するのではないかという不安を表す会話である。〔T04A〕の不安を聞いて、〔T04B〕はからかいをしてから、相手の状況を確認する質問をしている（図2）。以下、便宜上、タイ語の発話については、日本語訳を用いて記述する。

タイ語の会話例1（データ T04：〔T04A〕・20代社会人女性、〔T04B〕・20代女子大学院生、LINE）

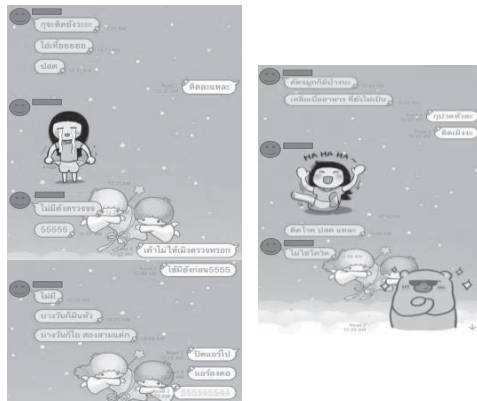





図2 タイ語の会話例1のデータ（日本語訳）

01 [T04A] : あたしもう感染したのかな？	不安表明 〔-〕
02 [T04A] : くそおおお	不満表明 〔-〕
03 [T04A] : 苛立っているよ	不満表明 〔-〕
04 [T04B] : 感染してるよ	からかい 〔+〕
05 [T04A] : 	受けいれ 〔+〕
06 [T04A] : 検査するお金がない	受けいれ 〔+〕
07 [T04A] : wwwww	受けいれ 〔+〕
08 [T04B] : (病院が) 検査させてくれないと思うよ	からかい 〔+〕
09 [T04B] : まず熱でた？ wwww	質問
10 [T04A] : ない	応答
11 [T04A] : 時々めまいがした	情報提供 〔-〕
12 [T04A] : 時々咳が出た。2-3回で	情報提供 〔-〕
13 [T04B] : エアコン消して	からかい 〔+〕
14 [T04B] : (エアコンからの) 冷えた空気が気道に流れ込み	からかい 〔+〕
15 [T04B] : wwwwwww44	からかい 〔+〕


16 [T04A] : 鼻詰まりはたまにあったよ。	情報提供 [-]
17 [T04A] : 食欲ないだけは、まだ大丈夫	情報提供 [-]
18 [T04B] : あたしは頭痛くなってきた	からかい [+]
19 [T04B] : あんたから感染したの	からかい [+]
20 [T04A] : 	笑い [+]
21 [T04A] : 感染したのは苛立ち病だね	ツッコミ [+]
22 [T04A] : コロナじゃなくて	ツッコミ [+]
23 [T04B] : 	受けいれ [+]

この会話例1は、会話の内容から見ると、【不安表明】による【不安共有の部分】と【症状確認の部分】の2つに分けることができる。

以下、それぞれの部分の連鎖相識について順に述べる。

まず、【不安共有の部分】(01-08行目)の連鎖組織について詳細に述べる。この会話は[T04A]01の「あたしもう感染したのかな?」と自分もコロナに感染したのではないかという【不安表明】によって、連鎖組織を開始している。以下の連鎖1に示す。

タイ語の会話例1(日本語訳)の連鎖1



01 [T04A] : 不安表明 [-]	あたしもう感染したのかな?
02-03 [T04A] : 不満表明 [-]	くそおおおお。苛立っているよ
04 [T04B] : からかい [+]	感染してるよ
05-07 [T04A] : 受けいれ [+]	 検査するお金がないwwwww
08 [T04B] : からかい [+]	(病院が) 検査させてくれないと思うよ ^{iv}

[T04A]はそれに続いて「くそおおおお。苛立っているよ」という【不満表明】を付け加えている。それに対して、[T04B]は04で「感染してるよ」という【からかい】で応じている。[T04A]は05-07でスタンプと「検査するお金がないwwwww」という【受けいれ】をしている。そして[T04B]の08での「(病院が) 検査させてくれないと思うよ」という否定的な予測を示す皮肉めいた面白い【からかい】による発話で連鎖を終結している。


この否定的な予測は、当時タイでは感染者数が圧倒的に多く、病院や診療所が新規の患者を受け入れなかったという事情にもとづくもので、お金をどれだけ払っても診察をしてくれないだろうということを含意している。

続いて、【**症状確認の部分**】（09-23 行目）について述べる。[T04B] は上記のやり取りを契機にして、09 で「まず熱でた？wwwwww」という【**質問**】を行い、新たな連鎖組織を開始している。以下の連鎖 2 に示す。

タイ語の会話例 1（日本語訳）の連鎖 2

09 [T04B] : 質問	まず熱でた？wwwwww
10 [T04A] : 応答	ない
11-12 [T04A] : 情報提供 [(-)]	時々めまいがした。時々咳が出た。2-3 回で
13-15 [T04B] : からかい [(+)]	エアコン消して。(エアコンからの) 冷えた空気が気道に流れ込み wwwwww44 ^v
16-17 [T04A] : 情報提供 [(-)]	鼻詰まりはたまにあったよ。食欲ないだけは、まだ大丈夫
18-19 [T04B] : からかい [(+)]	あたしは頭痛くなってきた。あんたから感染したの
20 [T04A] : 笑い [(+)]	
21-22 [T04A] : ツッコミ [(+)]	感染したのは苛立ち病だね。コロナじゃなくて
23 [T04B] : 受けいれ [(+)]	

[T04B] は 09 の【**質問**】の末尾に笑いをういており、症状確認の質問に関して少しふざけて聞いている感じを表している。[T04A] は 10 で症状がないと言っているにもかかわらず、次の 11-12、16-17 で食欲はあるが、時々めまいや咳があるなどというネガティブな【**情報提供**】を行っている。[T04B] はそれに【**からかい**】で対応している。コロナの症状は風邪などとは変わらないため、コロナかどうか見極めるのが難しいものである。そのため、[T04B] はその症状はコロナではないと直接に言わずに、13-15 の「エアコン消して。(エアコンからの) 冷えた空気が気道に流れ込み wwwwww44」という【**からかい**】を用いて、間接的にそれはただの冷房病だということを示している。さらに、18-19 で「あたしは頭痛くなってきた。あんたから感染したの」という【**からかい**】をして、自分のことへと話題を変えている。

[T04A] はそれを受けて、20-22 で「 感染したのは苛立ち病だね。コロナじゃなくて」と【**笑い**】のスタンプと【**ツッコミ**】をして、面白いこととして、会話を終えている。

以上、この会話例 1 の始まりは、不安共有で始まっているが、症状確認の質問によって、会話が症状確認に展開していく。その症状がコロナかどうかを見極めるのが難しいため、聞き手は【**からかい**】という手段を用いて反応していた。それによ

って、会話の雰囲気ポジティブで面白いものになり、笑いを誘って終わらせることができたのである。

言語表現に関して、からかいをする際、「エアコン消して(ปิดแอร์ไป)」など命令のような表現を使ったり、「苛立ち病に感染した(ติดโรค ปรศด หละ)」などの大げさな表現を述べたり、「コロナに感染しているよ(ติดละ หละ)」「(病院が)検査させてくれないと思うよ(เค้าไม่ให้มันตรวจหรอก)」などの皮肉めいた表現を使ったりしていた。

5. 考察

今回のデータにおいて、日本語だけに見られた特徴としては、聞き手の不安な気持ちを共有するために、【不安表明】に対して【理解】、【評価】そして【共感】をしていたことが挙げられる。もっとも多かった反応はネガティブな内容への【共感】である。そこでは、聞き手のネガティブな反応によって、会話の方向性としては最初から、最後まで、ネガティブな発話が続いて行われていた。一方タイ語では、【不安表明】に対して、【共感】せず、面白く笑いを誘う【からかい】をしていた。そこでは、会話としてはネガティブなやりとりばかりが続いていたわけではなく、途中で会話がポジティブな方向に展開していく傾向があった。

また、タイ語では、相手がコロナに感染したかどうかなど反応を見極めるのが難しい時にも、聞き手が【からかい】という手段を用いて反応していることが観察された。それによって、会話の雰囲気が面白いものになり、会話が前向きに展開されていた。

日本語の愚痴・不満の会話を分析した釜田(2017)とタイ語における不満の会話を分析したソムチャナキット(2013)、ウォンサミン(2016、2018)の先行研究では、好ましくない会話において、日本語では聞き手に同調や自分の正当性を認めてもらうことを求めているが、タイ語では冗談を交えながら会話を進めているという特徴があるというものがあつた。本研究の結果から、対面会話のみならずSNSでのチャット会話においても同様の傾向が見られた。つまり日本語母語話者の不安表明の聞き手は、【共感】または、同調的な内容の【評価】で、同じ立場の相手と不安な気持ちを共有していた。一方、タイ語母語話者は【からかい】といった方法で相手の不安な気持ちを楽な気持ちに切り替えて、やりとりを楽しい方向に進めていた。

言語表現に関して、日本語では【共感】をする際、「せっかく〜のに」「残念ですね」や「大変でしょうね」、「大変だね」などの表現が用いられる。また、「ね」という終助詞の使用も目立った。一方、【評価】をする際、「まさか〜とは

思わなかった」、「思ったより」、「怖い」、残念な気持ちを表す「のに/のにね」、「残念」などという表現が使われていた。また、ネガティブな発話では「😞」と「😭」、「😓」などの絵文字の表現を使ったりして、会話の雰囲気や少しふざける感じにするということもみられた。好ましくない会話の雰囲気を真面目過ぎず、少しふざけた会話にすることができるのは、2.1 で述べたように LINE では顔文字表現などが行われ、テキスト以外の表現の工夫や使い分けをしているという SNS の会話の特徴の一つだと思われる。

一方、タイ語ではからかいをする際、「エアコン消して (ปิดแอร์ไป)」など命令のような表現を使ったり、「苛立ち病に感染した (ติดโรค ปวดแหวะ)」などの大げさな表現を用いたり、「コロナに感染しているよ (ติดละหวัะ)」などの皮肉めいた表現を使ったりしていた。

また、日本語と比べると、タイ語母語話者はスタンプを使用することが多かったが、日本語のように絵文字を使用していなかった。

このことから、好ましくない状況の会話において真面目になり過ぎず、ふざけている印象を与えるために、タイ語ではいわば言葉による遊びと非言語表現による遊びを、日本語では非言語表現による遊びを行っていたことが分かった。つまり、タイ語はからかいとスタンプ、日本語は絵文字がその役割を担っていると考えられる。

最後に、今回のデータの分析から、コロナ禍における SNS の重要性を考えると、両言語とも人に会えない困難な状況では、SNS は、不安な気持ちを分け合っ、感情を共有することに加えて、気持ちが楽になるように言葉と非言語表現による遊びを行う場面としての役割も担っているのではないかと考えられる。

6. 今後の課題

今後の課題としては、文字での会話を分析するだけでなく、チャットで送信されたスタンプや絵文字も詳細に分析して考察していく必要があると考えている。

参考文献

- ウォンサミン, スリーラット (2016) 「不満表明とそれに対する応答に関する研究—日本語母語話者とタイ語母語話者を比較して—」『言語文化と日本語教育』(51), 11-20.
- ウォンサミン, スリーラット (2018) 「日本語事例におけるタイ語母語話者の不満表明の言語 行動—不満表明フレームから遊びフレームへのリフレーミングに着目して—」『社会言語科学』21 (1) pp. 239-254 社会言語科学会

- 岡本能里子(2017)「雑談のビジュアルコミュニケーション—LINE チャットの分析を通して—」『雑談の美学：言語研究からの再考』pp.213-236、ひつじ書房
- 岡本能理子・服部圭子(2017)「LINEのビジュアルコミュニケーション—スタンプ機能に注目した相互行為分析を中心に—」柳町智治・岡田みさを(編)『インタラクションと学習』pp.129-148(ひつじ研究叢書(言語編)第136巻)
- 釜田友里江(2017)『日本語会話における共感の仕組み—自慢・悩み・不満・愚痴・自己卑下の諸相—』名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻博士学位論文
- 串田秀也・平本毅・林誠(2017)『会話分析入門』勁草書房
- 総務省情報通信政策研究所(2020)「令和元年度 情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書」情報通信政策研究所
- ソムチャナキット, クナッジ(2013)「日タイ両言語における『不満表明』に関する研究：不満の程度の差による考察」2013年度大阪大学博士論文
- 高木智世・細田由利・森田笑(2016)『会話分析の基礎』ひつじ書房
- チャランポン, スパーナン(2020)「タイ語と日本語の友人同士の会話における悩み語りの対照研究—語りの構造および語り手と聞き手の相互行為を中心に—」2020年度大阪大学修士論文
- 西川勇佑・中村雅子(2015)「LINE コミュニケーションの特性の分析」『東京都市大学横浜キャンパス情報メディアジャーナル』4第16号、pp.47-57
- 西阪仰・早野薫・須永将史・黒嶋智美・岩田夏穂(2013)『共感の技法:福島県における足湯ボランティアの会話分析』勁草書房
- 野中進(2007)「愚痴と文学」『文字の都市：世界の文学・文化の現在 10講』東京大学出版会、pp.63-84
- 水谷信子(1993)「『共話』から『対話』へ」『日本語学』第11巻4号、pp.4-10 明治書院

-
- i 他にコロナの不安による【予定変更の提案・報告】から始まる会話がある。
- ii 会話の参加者は皆、大学院生でありながら、日本語学校にも勤めている。
- iii 隣接ペアと連鎖組織を分かりやすくするために、離れた発話の隣接ペアが隣接の位置になるように発話の順番を入れ替えている。
- iv 当時タイでは病床がひっ迫して、新型コロナ患者を受け入れない医療機関が多いため、症状がない人には基本的にコロナの検査をしなかった。
- v タイ語の55という笑い声の書き間違い。なお、本稿ではこの笑い声を「ww」と訳した。